

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：23903

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590025

研究課題名(和文)ベ平連/ジャテックによる脱走米兵支援活動の国際的影響力に関する実証的歴史研究

研究課題名(英文)A Historical Research on the International Impact of Beheiren/JATEC's Undercover Operations Helping the Vietnam Era US Deserters

研究代表者

平田 雅己(Hirata, Masaki)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：20287577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究費受給期間内に明らかになった主な研究成果の要旨は以下のとおりである。1)ベ平連に関する米軍諜報文書が1920年代前半の「ホワイト戦争計画」を起源とする米軍による組織的な民間人監視活動の歴史の流れの中に位置づけられる性格の文書であることがおよそ明らかになった。2)上記文書に記載されていた情報について、ベ平連関係者への聞き取り調査や既存の文献・資料との照合調査の結果、これまで本物の脱走兵とされていた兵士3名が実はスパイ兵士であることが判明した。3)これまで十分な解明がなされてこなかった「外国人ベ平連」メンバーの活動実態と日本人ベ平連メンバーとの関係性が徐々に見えてきた。

研究成果の概要(英文)：--The declassified US military intelligence reports on the Beheiren activities that I obtained turned out to be positioned as the products of the long history of US military's surveillance against civilians dating back to the early 1920's, according to my additional archival research. --Regarding of the contents of the military documents above, as a result of my interviews with eleven former Beheiren members and a comparison of those with the existing publications on this topic, three young GIs posing as deserters and contacting Beheiren turned out to be US agents. --From my interviews with 6 American activists who had close ties with the Japanese Beheiren members and my analysis of the related US government documents, the impacts of Gaikokujin (Foreigners) Beheiren's antiwar activities in Japan on the US government turned out to be more significant than previously thought.

研究分野：アメリカ政治外交史

キーワード：ベ平連 ベトナム戦争 脱走兵

1. 研究開始当初の背景

本研究費受給以前の3年間、私は主として米国の公文書館において日本の代表的なベトナム反戦市民組織「ベトナムに平和を！市民連合(ベ平連)」に関する公文書調査に従事してきた。その結果、1967年11月に露見した「イントレピッド号脱走米兵事件」をきっかけに、ベ平連(及び下部組織であるジャテック)が展開した脱走米兵支援活動が当時の米国政府のベトナム戦争政策決定に多大な影響を与えていたことを示唆する文書の存在を数多く確認した。様々な文書の中でも、ベ平連の脱走米兵支援活動を監視する膨大な米軍文書の入手に成功した私は、文書の性格や位置づけの考察、文書記載情報の真偽確認、そして他の関連文書との関係性の解明に着手するため、本研究費に申請、採択を受けた。

2. 研究の目的

日本におけるベ平連/ジャテックに関する先行研究を俯瞰すると、小熊英二『民衆と愛国』(2002)や『1968年』(2009)、道場親信『占領と平和』(2005)、吉見俊哉『親米と反米』(2007)など充実した社会運動史並びに社会思想史研究がすでに数多く存在している。しかし、ベ平連が展開した様々な国際的な反戦活動が実際に米政府の政策決定や当時の日米関係にどのような政治的影響力を及ぼしたのかを実証する、政府文書を用いた本格的な国際関係史研究は皆無である。

海外における先行研究として Thomas Havens の *Fire Across the Sea*(1987)(翻訳『海の向こうの火事』)が挙げられる。Havens は戦後日本の社会運動史におけるベ平連運動の革新性を高く評価しながらも、結論として、日本人はベトナム反戦運動に参加することで自己の「良心」を満たし、ベトナム戦争特需から「財布」を満たしただけであったと述べ、日本人のベトナム戦争への関わり方の自国民中心主義的な性格を揶揄した。しかし、Havens の研究には日米の政府文書はまったく使用されていないため(当時まだ解禁されていなかった)、その解釈の妥当性には留保が必要である。アメリカ政治外交史研究者としての立場を活かし、従来のベ平連運動研究に欠けていた国際関係史のアプローチによる歴史研究の成果を出すことが研究の第一の目的である。

またベ平連/ジャテックの脱走米兵支援活動の実態に関する元関係者による回顧録(関谷滋・坂元良江編『となり脱走兵がいた時代』、高橋武智『私たちは、脱走アメリカ兵を越境させた』など)が触れていなかった新事実を提示する研究成果を目指している。

3. 研究の方法

研究費受給期間内に実施した研究方法及び研究活動をまとめると以下のとおりである。

る。

1) ベ平連関係者対象の聞き取り調査に関しては、日本と米国で合計11名から話を伺うことができた。またイントレピッド号事件の脱走兵1名から話を伺うことができた。

2) 以下の公文書館で資料調査を行った。
・「イントレピッド号事件」に関する史料調査(メリーランドの米国国立公文書館、ニューヨークのイントレピッド博物館)

・ジョンソン政権時代の国防長官二名(ロバート・マクナマラ、クラーク・クリフォード)の個人ファイル文書の調査及び脱走兵に関する連邦議会公聴会関係史料の調査(ワシントンDCの米国連邦議会図書館)

・米国のベトナム反戦帰還兵団体「ベトナム戦争に反対する帰還兵(VVAW)」及び学生運動組織「民主的な社会を求める学生連合(SDS)」文書の調査(マディソンのウィスコンシン歴史協会)

・ニクソン政権期の日米関係ホワイトハウス文書の調査(アナハイムのニクソン大統領記念図書館)

・アメリカ人平和活動家ハワード・ジン及びデヴィッド・デリンジャー文書の調査(ニューヨーク大学図書館)

・日本の新聞「東京オブザーバー」のバックナンバー調査(東京大学図書館)

4. 研究成果

研究費受給期間内に明らかになった主な研究成果(気づきを含む)は以下のとおりである。

1) ベ平連に関する米軍諜報文書が1920年代前半の「ホワイト戦争計画」を起源とする米軍による組織的な民間人監視活動の歴史の流れの中に位置づけられる性格の文書であることがおよそ明らかになった。上院司法委員会報告書「米陸軍による民間人監視活動」(1972年)に収められた監視対象リストの中に「ベ平連」の名があったが、具体的な活動を示す情報は盛り込まれていなかった。(米国では1970年1月、元陸軍諜報担当官クリストファー・パイル氏の告発をきっかけに米陸軍による国内外の民間人監視活動が社会問題化。1971年6月、米陸軍、活動の停止命令。)

2) 1967年秋に日本で発生した「イントレピッド号事件」を契機に、ジョンソン政権はベ平連の脱走兵支援活動を警戒し始め、1968年春、「脱走兵問題に関する初の米上院軍事委員会小委員会公聴会」(1968年5月21-22日)以降、彼らの活動の実態把握を目的とする組織的な軍の隠密諜報活動が開始されていた

ことが明らかになった。

3) 軍の諜報文書に記載されていた情報について、ベ平連関係者への聞き取り調査や既存の文献・資料との照合調査の結果、これまで本物の脱走兵と思われていた兵士3名が実はスパイ兵士であることが判明した。また脱走兵を匿った普通の市民の存在について、これまでのベ平連/ジャテックの文献に登場しなかった人物名を数多く確認することができた。

4) これまで十分な解明がなされてこなかった「外国人ベ平連」メンバーの活動実態と日本人ベ平連メンバーとの関係性が徐々に見えてきた。特に元「ICUの六人」関係者やバーバラ・バイなどPCS活動家への聞き取りに成功したことは大きな成果であった。

5) 「イントレピッド号事件」の四人の脱走水兵のうち一人クレイグ・アンダーソンへの聞き取りに成功し、これまで知られていなかった彼の生い立ちやその後の人生を知ることができた。彼は軍人としてイントレピッド号に乗船する以前から、ベトナム戦争に疑念を抱いていたことがわかった。またイントレピッド号の航海日誌からこの艦船がどのようにベトナム戦争に関わっていたのか把握することができた。

これら成果をもとに、この研究プロジェクトを「萌芽的」性格からより本格的な研究へ昇華させる手ごたえを大いに感じたしである。今後も引き続き調査・研究を進めながら、可能であればこれから3年以内に包括的な研究成果を出したいと考えている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

元ベ平連メンバー高橋武智氏の特別講演会(2016年11月11日)における平田雅己のコメント(『南山大学地域研究センター共同研究「1968年の意義に関する総合的研究」2016年度中間報告書』、2017年3月所収)

平田雅己「民衆の日米関係史 ベ平連と服部夫妻から学んだこと」(Nagoya Fulbright Association 公開講演会、椋山女学園大学、2016年6月17日)(The Fulbrighter in Nagoya No.25 & No.26, January 2017, Nagoya Fulbright Association)

平田雅己「米政府公文書に示されたベ平

連 ジャテック第一期における米軍諜報活動を中心に」(地域ベ平連研究会第3回例会、山口県岩国市市民会館、2015年5月23日)

平田雅己「ベ平連による脱走米兵支援活動と米国の干渉 1967 - 68年」(アメリカ力学会第48回年次大会「アメリカ国際関係史研究」分科会、沖縄コンベンションセンター、2014年6月8日)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)
名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)
名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平田 雅己 (HIRATA, Masaki)
名古屋市立大学・人間文化研究科・准教授
研究者番号: 20287577

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()